

4-1-10 周産期診療部

4-1-10-1 不妊診療科

1. 概要、特色

卵の発育には休日も祝日も存在しないため、妊娠成立のための最適なタイミングを見つけるためには休日に関係のない連続した卵胞発育モニターが必要である。当科の最大の特色は患者に最善の医療を提供するため、公的なセンターとしてははじめて土日の休日や祭日に関係なく不妊総合診療ができる体制を整えたところにある。また不妊診療は一般の病院ならびに診療所では、ともすると流れ作業的な、いいかえれば患者様にとっては inconvenient な環境にあるのが我が国の現実である。当科はナショナルセンターとして我が国の不妊診療のスタンダードを確立すべく、不妊治療を望むカップルの診療に十分な時間をかけ、不妊診療にとってはもっとも大切なところのケアに配慮し診療を行うよう努力している。また、他の施設で治療を放棄されてしまったような難治性不妊症例についても、母性内科ならびに不育診療科、産科、婦人科、胎児診療科、遺伝診療科など当院の他科の協力を得ながら決して諦めることなく治療方法を提示し、カップルと相談しながらお互いに納得のいく診療が行えるよう努力している。

2. 診療活動、研究活動

治療実績 2006.4.1 ~ 2007.3.31

外来初診患者		妊娠実績		手術実績	
平均年齢	35.4歳	総数	148人	総数	107例
計	371人	タイミング	85人	腹腔鏡下手術	64例
~24	3人	人工授精	38人	筋腫核出 子宮内膜症 卵巣嚢腫核出 FT(卵管鏡下 卵管形成) など	
25~29	31人	体外受精	25人		
30~34	119人				
35~39	159人				
40~44	48人				
45~	11人			子宮鏡下手術	17例
				開腹手術	3例
				その他	23例

体外受精治療実績

	2002	2003	2004	2005	2006		
採卵件数	2	37	91	157	172	35歳未満	26件
						35歳以上	146件
conv.IVF					126	35歳未満	17件
						35歳以上	109件
ICSI (split/TESE含む)					46	35歳未満	9件
						35歳以上	37件
妊娠					33	35歳未満	9件 34.60%
						35歳以上	24件 16.40%
融解胚移植					62	35歳未満	15件
						35歳以上	47件
融解胚妊娠					6	35歳未満	3件
						35歳以上	3件

前記の治療実績が示すように、体外受精による症例数が年々増加している。また、2004年2月からは以前より実施していた体外受精・胚移植に加え顕微授精による治療も開始した。体外受精、顕微授精といった生殖補助医療技術(assisted reproductive technology, ART)を伴う治療は今後も増加していくと思われる。

しかし、妊娠例の多くはタイミング療法や人工授精で成立しており、体外受精だけでなく、手術療法など患者に最適な治療法を提供するように努めている。